



ときのまど

時の窓

No.197

TOKI NO MADDO

2017/5/8

1月から3月にかけて、各地連で青年部長会議や学習会が開催され、青年の課題や新採用職員への加入呼びかけ等について、熱心な議論がされました。

今号では、各地連での開催内容と、4月の新採用職員歓迎会の様子を一部ご紹介します！

～目次～

- 1P…中国地連青年部長会議&ロウスクール
- 2P…九州地連支部青年部長会議、東京地連青嵐サミット
- 3P…北海道地連ウィンタースクール、東北地連青年部長会議
- 4P…新採用職員歓迎会の様子&お知らせ



中国地連青年部長会議 &ロウスクール

中国地連は1月28日～29日に青年部長会議とロウスクールを開催しました。

1日目の青年部長会議では、各支部が青年協に提出した活動報告を基に、昨年から現在にかけての活動報告をしました。各支部からは、組織強化に繋がる新採用職員に対する勧誘と加入者を放置しないようにレクや学習をしているとの報告がありました。続いての支部別の討議では、4月新採用職員の勧誘や未加入者への勧誘について話し合い、プランニングシートやそれぞれの勧誘に向けた準備について確認を行いました。

2日目のロウスクールでは、地連の「組合の意義」についての講義あり、青年協の交渉過程の講義ありの盛りだくさんの内容でした。

「組合の意義」については、広島支部の青年対策の方の講義で、これぞ教科書というような内容のパワポで、採用間もない方でも分かるようなものとなっており、派遣された他地区の青年協常任委員の方々からも好評でした。

青年協の講義では、11月の最高裁交渉の際の支部提出の意見書、青年協内での議論の過程を「Network」を用い説明しました。内容として、部長向けとしたため、未加入者や採用1年目の方には分かりにくかったと思いますが、各支部からの要求がどのように最高裁交渉に繋がっていくかを伝えることができたのではないかと思います。

参加者からは、「採用1年目の歓迎された側の意見を聞いて、4月の新採用職員の歓迎に向けた準備に活かしていきたい」、「他支部の活動を聞いて自分たちも取り入れたいと思った」や「他支部の方と交流ができた」、改めて組合の意義について考えたりし、充実したものだった」といった感想があり、本会議、ロウスクールが今後の個々人の活動の一助になれば幸いです。また、中国地区を担当する青年協の常任委員として、今後も中国地区の青年の要求実現に援助できるようにしたいと思います。(中国地区常任委員 笹川新輔)





2月11日～12日の2日間にわたり、九州地連支部青年部長会議を福岡市内で開催しました。今年は、8月19、20日に控える第6回せいふう祭りで利用するホテルの下見を兼ね、福岡市内での開催にこぎつけることができました（本当に昨今の福岡ホテル事情は厳しい…）。

会議では、1日目冒頭に来賓として参加いただいた青年協古田議長から、青年部に求められる役割や期待について、雫石常任委員（東北地区）から、初参加の最高裁総務課長交渉及びこれまでの常任委員としての働きに関する感想等の内容で基調講演をいただきました。

その後、九州地連青年対策部の行動報告、青対部方針と重点要求書案に関する説明及び採決、青年協発5号指示の組織活動報告書に基づく、各支部からの行動紹介を行いました。その後、夕食懇親会（本当に寒かったですね…参加していただいた皆さんには土下座で謝りたい↓）、ホテル着後、スイーツを囲んでの座談会を行い、盛りだくさんの1日目を終えました。

2日目は、始めに、中国地連青年部長会議での講義の影響を色濃く受けた町田から、パワーポイントを利用して「全司法と当局 3つの交渉期の役割」と題した講義を行った後、せいふう祭りや新採加入に向けた議論の時間を設け、充実の日程で会議を終えることができました。寒波による交通機関の乱れもあり、全支部の出席が叶わなかった事は大変残念なことです。九州の青年の力強さを再認識できた会議となりました。

（九州地区常任委員 町田淳就）

九州地連支部青年部長会議



東京地連は2月18日に青嵐サミットを開催しました。

まず、1つ目の講義を全司法本部中矢委員長が行いました。裁判所時報の内容から当局が何を考えているのか読み解き、それを受けて全司法はどう考えるのかという点について講演がありました。最高裁とは異なる視点から考え、かつ、意見を発信するという全司法の重要な役割を改めて理解する機会となりました。

中矢委員長の受けて、班別で職場の問題点やその改善策に

ついて話し合いました。超過勤務や日頃の業務の進め方など、青年の身近な問題に関する発言が多く出ました。

続いて青年協佐藤常任委員（東京地区）が2つ目の講義を行いました。青年協とはどのような組織か、交渉の流れやその重要性、統一要求書（案）に対する意見の報告方法について解説しました。

最後に4月の新採用職員をどのように勧誘していくかという点について、参加者全員で意思統一をしました。

小野東京地連青年対策部長が「Plan Do Share」という、計画をし（Plan）、実行し（Do）、それを皆で共有しよう（Share）という活動の提案を行いました。また、各参加者が新採用職員の勧誘方法について、出身支部での経験を踏まえて発言をしました。

参加者からは、「全司法の組織、活動、役割などについてイメージがつかめた」、「職場について考えるきっかけができた」といった好意的な感想や、「新採用職員への加入呼びかけを積極的に行っていきたい」という意欲的な感想が多くありました。（東京地区常任委員 佐藤秀彰）



東京地連青嵐サミット



北海道地連は、今年の3月4日～5日にかけて北海道札幌市でウインタースクールを開催しました。ウインタースクールとは、労働学校の別称であり、主に若手組合員を対象とした組合に関する学習会のことを指します。北海道各支部から計24名、青年協から古田議長及び米島常任委員（中部地区）が参加しました。

1日目は講義と演劇を行いました。講義では全司法の歴史や構造などの基礎を解説しました。そのほかに架空の書記官の日常を取り上げて、休暇の柔軟な取得など、全司法の功績が職場の至るところに隠れていることをお話しました。その後は地連役員が全司法の過去（青年協の発足当時）を演劇により再現して参加者に全司法について理解を深めていただきました。また、演劇の合間に内容に関連したクイズを出題しました。

1日目の夜に懇親会を開き、支部を超えて交流を深めることができました。

2日目は主に班別討議を行いました。労働組合に対して青年のみなさんが抱いているイメージはどのようなものか、率直な意見を交換しました。そのほかに青年組合員が労働組合について学習したいこと、深く知りたいと思っているものはどのようなものか議論を交わしました。

今後とも交流を深めながら、労働組合の大切さを感じてもらえる場を設けていきます。（北海道地区常任委員 林孝晃）

北海道地連

ウインタースクール



3月11日～12日、東北地区の青年部長会議が開催されました。

会議ではまず冒頭に青年協常任委員（東北地区）から第3回青年協常任委員会及び最高裁交渉の結果報告があった後、青年の意見の集約や調査を有効に行っていくにはどうすべきか及び青年層への加入呼びかけについての話し合いが行われました。他地区からは佐藤常任委員（東京地区）、山下常任

委員（四国地区）に参加いただき、各議題について意見及び各地区の実情をお話いただきました。

意見集約や調査については、そもそも東北全体で青年部として独立した活動ができているところが少ない中で体制的にレスポンスを返すのが難しい、支部に対する連絡事項が多い中で青年部に対する連絡を把握しきれないなどの現状が挙げられ、まずは各支部の役員間での簡易な連絡手段を確立するため、新たにLINEグループにより情報の共有を図っていくことが確認されました。

また、青年層への加入呼びかけについては、新採用職員の加入する4月期を目前に控え、まずは各支部の10月期もしくはそれ以前の採用職員に対する勧誘の状況を確認し、未加入者への勧誘継続の重要性を確認した上で、4月期の勧誘について話し合われました。

話し合いの中では、各支部とも例年、それぞれ歓迎会を企画し行っていた一方で、地連規模でのフォローはできていなかったため、連携を強化することや、青年組合員の「自己紹介カード」を配布し、アピールを図ることなどが確認されました。

（東北地区常任委員 雫石康智）

東北地連青年部長会議

新採用職員のみなさん 採用おめでとうございます！！

全国各地（一部）
歓迎会のようす

東京家裁



山口



大阪



京都



中部

～お知らせ～

国公労連主催の2017 国公青年セミナーが、6月16日（金）～17日（土）の2日間、東京で開催されます。

他単組の青年とともに、人事院や財務省と交渉したり、組織拡大について話し合ったりと、盛りだくさんの内容です。

興味のある方は、青年協・青年協常任委員・各地連にお問い合わせください。

次号予告

全国各地の

新採用職員歓迎会のようす